

地域 FM ラジオ実習

2024 年度報告書

抜粋版

2025 年 3 月

北九州市立大学 地域創生学群 初年次教育ワーキング

目次

抜粋版では、個人情報に配慮し、下記のみ掲載しております。
掲載内容：1.実習概要、4. 全体を通した考察

1. 実習概要 pp.1

2. 最終発表会資料 pp.7

3. 最終レポート pp.53

4. 全体を通した考察 pp.190

5. 参考資料・付録 pp.191

令和6年度市民センター職員等研修 パネルディスカッション

「若者の力を地域に！地域と学びの共創フォーラム」

～市民センターにおける生涯学習活動を通じて～

1. 実習概要

授業「指導的実習Ⅰ・Ⅱ」では、初年次教育の一環として、年間を通じた地域 FM ラジオ実習を実施した。本実習では、学生は 6～7 名のチームに分かれ、市民センターでのボランティアや地域活動を通じて、地域社会の実情を学び、課題の発見と解決に取り組んだ。また、活動内容や学びをコミュニティ FM ラジオで発信し、市民へ広く情報を届けることで、情報発信者としての責任を自覚し、住民とのつながりを築くことを目指した。本実習は北九州市の「北九州市市民センターインターンシップ事業」の一環としても実施された。

1.1 実習の目的と目標

■目的

何かを使用する側（使い手）がその物事の背景にある考え方や人の想いを理解した上で、自らが創造する側（作り手）になることで新たな価値を生み出すプロセスを学ぶ。

■目標（目的の達成過程で目指すこと）

- ・地域で活動を行うにあたっての基本的な姿勢、マナー、考え方、チーム協働の仕方を学ぶ。
- ・プロジェクトを進めていく基本的プロセスを学び、自己の得意不得意について気づく。
- ・まちを創る人のビジョンや熱意を学ぶことで地域創生に向けた現場を理解し自らの問いを見つける。

1.2 チーム分け

チームは、学生に対して次の条件を示し、それに基づいて選んでもらった。出身都道府県が 4 つ以上、高校時代の部活が多様（硬式野球部は分かれる）、ジェンダー混合、3 つの入試区分（推薦型、総合型、一般型）3 つが含まれていることが求められた。

1.3 訪問した市民センター

■小倉北区エリア

- ・足原市民センター（足原 2-8-3）
- ・清水市民センター（弁天町 6-5）
- ・霧丘市民センター（黒原 2-30-30）
- ・中島市民センター（昭和町 16-2）
- ・南丘市民センター（熊谷 1-26-15）

■小倉南区エリア

- ・長尾市民センター（長行西 1 丁目 1-1）
- ・高蔵市民センター（上吉田 3 丁目 1-1）
- ・吉田市民センター（中吉田 6 丁目 27-5）
- ・長行市民センター（徳吉西 3 丁目 3-16）
- ・志井市民センター（大字志井 279）

1.4 市民センターへの訪問頻度

各市民センターには2チーム（6名×2組）が配属され、隔週で訪問する。1チームの活動頻度は「週2日（個人では2週間に1日）」とし、7月末まで各チーム「平日12回、土曜日12回」訪問することを想定した。その後、夏季休暇期間やラジオ放送までに各自が必要だと思う地域課題の解決に対して行動を起こすことを推奨した。

1.5 スケジュール

■実習全体スケジュール

時期	内容
4月	チーム・市民センター配属決定 生涯学習課による「市民センターの役割などについて」の講義
5月～7月	センター見学・挨拶、定期的に訪問時実習を行う
7月	中間報告会、課題の整理・提案
8月～9月	課題解決に向けた提案・実践
10月	ラジオ放送準備
11月～12月	ラジオ放送
1月	最終報告会
2月	令和6年度市民センター職員等研修にて成果発表（最終報告会優秀チームのみ）

※毎週水曜日の授業「指導的実習Ⅰ・Ⅱ」では活動の進捗報告等が行われた。

■「指導的実習Ⅰ・Ⅱ」のスケジュール（1学期）

1学期	指導的実習Ⅰ 1限 (9:00～10:30)	講義タイトル	ねらい	日程	指導的実習Ⅰ 2限 (10:40～12:10)	講義タイトル	ねらい
1	4月10日	学習ガイダンス	地産地消生学習とはどのような学習なのかを理解させ、学習者としての自覚を持たせる	4月10日	FM実習ガイダンス	FM実習ガイダンス	FM実習の取り組み内容について理解する
2	4月17日	専任講義1(チームづくり)	チームビルディング	4月17日	FM実習のチーム作りワークショップ	チームをつくらう	活動チーム内の相互理解を行い、チームとして適切に機能するように促す
3	4月24日	専任講義2(ICT系のマナー)	ICTの作法	4月24日	FM実習について (マニュアル視覚、配属発表)	FM実習を理解する	FM実習がどのような実習なのかを理解する
4	5月8日	特任教員講義	実習担当教員からのお話	5月8日	FM実習について (社会教育、市民センターとは)	市民センターを知る	カウンターパートである市民センターとはどのような場所なのかを理解する
5	5月15日	ゲスト1講義(マナー)	社会人としてのマナーを身につける	5月15日	進捗報告1回目 (2チーム×2部屋)	活動進捗報告	各チームの進捗を共有するとともに、直面する課題について教室全体で共有、確認しつつ、改善策について考える
6	5月22日	専任講義2(多様性理解の創設)	多様性によって多様性を理解する	5月22日	進捗報告1回目 (2チーム×2部屋)	活動進捗報告	
7	5月29日	専任講義3(自己管理)	自己管理	5月29日	進捗報告1回目 (2チーム×2部屋)	活動進捗報告	
8	6月5日	専任講義4(災害・地域防災への対応)	リスク管理	6月5日	進捗報告1回目 (2チーム×2部屋)	活動進捗報告	
9	6月12日	専任講義5(アウトプット型思考)	アウトプット型思考とコミュニケーション	6月12日	進捗報告2回目 (2チーム×2部屋)	活動進捗報告	
10	6月19日	専任講義6(企画について)	企画のノウハウ	6月19日	進捗報告2回目 (2チーム×2部屋)	活動進捗報告	
11	6月26日	専任講義7(マネジメント)	マーケティングと組織マネジメント	6月26日	進捗報告2回目 (2チーム×2部屋)	活動進捗報告	
12	7月3日	専任講義8(ファシリテーション・気づきの技術)	ファシリテーションと気づきの技術	7月3日	進捗報告2回目 (2チーム×2部屋)	活動進捗報告	
13	7月10日	専任講義9(調査方法Ⅰa)	調査の作法を学ぶ	7月10日	進捗報告2回目 (2チーム×2部屋)	活動進捗報告	
14	7月17日	専任講義10(リフレクション・個人の内幕)	脱離から学ぶこと	7月17日	進捗報告2回目 (2チーム×2部屋)	活動進捗報告	
15	7月24日	ゲスト講義2(リフレクション・中長期的な展望)	学びから未来を考える	7月24日	中間全体共有	中間活動全体確認	

■「指導的実習Ⅰ・Ⅱ」のスケジュール（2学期）

2学期	指導的実習Ⅰ 1期（9:00～10:30）	講義タイトル	ねらい	日程	指導的実習Ⅱ 2期（10:40～12:10）	講義タイトル	ねらい	
1	10月2日	学群スピリットとは（先輩・卒業生の語り）	卒業生に訊け！	卒業生の語りから「学群スピリット」を体感する	10月2日	ラジオ放送に向けて	ガイダンス	地域FMラジオ実習の全体像、ねらい、具体的な取り組み等について確認する
2	10月9日	地域創生学科4年生対談	4年生に訊け！	ロールモデルとしての4年生を提示することで、学年時代を充実させることへの意欲を醸成する	10月9日	シナリオづくり	シナリオライティング講座	番組を制作する
3	10月16日	特任教員対談	実習って面白い	実習においてリーダーシップへの期待を提示する	10月16日	放送準備（2チーム×2部室）	方法準備	番組を制作する
4	10月23日	専任講義11（交通政策）	交通政策	地域の課題を認識する	10月23日	放送準備（2チーム×2部室）	シナリオ指導（前半5チーム）	番組を制作する
5	10月30日	専任講義12（都市社会学）	都市社会学	地域の課題を認識する	10月30日	放送準備（2チーム×2部室）	シナリオ指導（前半5チーム）	番組を制作する
6	11月6日	専任講義13（司法福祉）	司法福祉	地域の課題を認識する	11月6日	放送準備（2チーム×2部室）	方法準備	番組を制作する
7	11月13日	専任講義14（都市計画）	都市計画	地域の課題を認識する	11月13日	放送準備（2チーム×2部室）	方法準備	番組を制作する
8	11月20日	専任講義15（社会福祉）	社会福祉	地域の課題を認識する	11月20日	放送準備（2チーム×2部室）	シナリオ指導（後半5チーム）	番組を制作する
9	11月27日	専任講義16（アントレプレナーシップ）	起業家精神を喚起する	地域の課題を認識する	11月27日	放送準備（2チーム×2部室）	方法準備	番組を制作する
10	12月4日	ゼミ説明会	ゼミを選ぶ		12月4日	放送準備（2チーム×2部室）	方法準備	番組を制作する
11	12月11日	ゼミ説明会	ゼミを選ぶ		12月11日	放送準備（2チーム×2部室）	シナリオ指導（後半5チーム）	番組を制作する
12	12月18日	リフレクション（中長期的な展望）②	経験を学びにする	1年間の経験を、単に「良かった」のではなく、学びを得られるように考察する	12月18日	放送準備（2チーム×2部室）	方法準備	番組を制作する
13	12月25日	放送分送替休講			12月25日	放送分送替休講		
14	1月8日	振り返り発表会（各区分選）	地域FMラジオ実習大発表会（予選）	一連の活動を振り返り、その成果を発表する機会を通じて、学びの確固を図る	1月8日	振り返り発表会（各区分選）	地域FMラジオ実習大発表会（予選）	一連の活動を振り返り、その成果を発表する機会を通じて、学びの確固を図る
15	1月22日	振り返り発表会（決勝）	地域FMラジオ実習大発表会（決勝）	一連の活動を振り返り、その成果を発表する機会を通じて、学びの確固を図る	1月22日	振り返り発表会（決勝）	地域FMラジオ実習大発表会（決勝）	一連の活動を振り返り、その成果を発表する機会を通じて、学びの確固を図る

1.6 活動内容

a) 市民センターの訪問、地域課題の解決に対する活動



市民センターでの活動の様子 1



市民センターでの活動の様子 2



市民センターでの活動の様子 3



市民センターでの活動の様子 4

b) 講義・進捗報告

授業「指導的実習Ⅰ・Ⅱ」では北九州市生涯学習課の方より「市民センター」や「生涯学習」について講義を受け、市外・県外からの進学者も多い学生に対して市民センターの役割や意義について講義いただいた。また、他の時間では授業内で各班の進捗（活動内容やそこから得た学びや気づき）を報告してもらい教員から実習に対するフィードバックや問いかけをした。



北九州市生涯学習課による講義



授業内での進捗報告

c) 中間発表会

- ・日時：7月24日（水）2限 ・場所：北九州市立大学 北方キャンパス 多目的ホール
- ・形式：ポスター発表（発表5分、質疑応答5分、移動5分の計15分を4回セッション行った）
- ・市民センターやまちづくり協議会の方々にもご来場いただき、直接学生にコメントをいただいた



中間発表の様子1



中間発表の様子2

d) ラジオ放送準備・放送

番組名はまちに飛び込んでこそ、まちの課題を知ることができ、解決に向けた行動ができるという信念を込めて「キタキューダイブ」となった。市民センターでの活動や学びだけでなくリスナーの興味関心を引き付けるために①チームメンバーの誰か、もしくは全員で何かにチャレンジしてみ、そのプロセスや成果を放送する「地創生〇〇やってみました」と地創生の日常の中で感じる「音」を録音、編集し解説とともに放送する「キタキューノオト（の音）」というブレイクコーナーも設けた。また、上級生がスチューデントアシスタントとして、実習生の指導やラジオ放送当日のパーソナリティ役などの役割を担った。



外部講師によるシナリオライティング講座



ラジオ放送の様子

e) ラジオ放送後

放送後は、FM キタキュー公式 YouTube にてアーカイブ視聴が可能である。学生は、サムネイルや視覚効果を工夫し、ラジオ放送後も地域の方々に広く視聴してもらえるよう取り組んだ。



アーカイブ動画の例



学生が編集したサムネイル



←アーカイブ視聴は FM キタキュー公式
YouTube よりアクセス可能です

f) 最終報告会（予選）

- ・日時：1月8日（水）1～2限 ・場所：北九州市立大学 北方キャンパス内教室
- ・形式；プレゼンテーション（発表7分、各取り組み、学び、成果、課題等を発表）
- ・小倉北区訪問チームと小倉南区訪問チームに分かれて実施した。審査教員票（10点）および学生票（自チーム以外への投票1点）により行い、上位2チームが1月22日の最終報告会へ進出した。各上位1位のチームは令和6年度市民センター職員等研修にて成果発表を行う。

g) 最終報告会（決勝）

- ・日時：1月22日（水）1～2限 ・場所：北九州市立大学 北方キャンパス内教室
- ・形式；プレゼンテーション（発表10分、各取り組み、学び、成果、課題等を発表）
- ・審査教員票（10点）および学生票（自チーム以外への投票1点）により行った。



最終報告会（予選）の様子



最終報告会（決勝）の様子

h) 令和6年度市民センター職員等研修にて成果発表



足原市民センター「チーム和」の発表



長行市民センター「九州 feat.愛媛」の発表

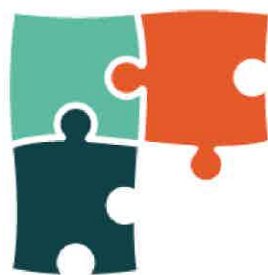
4. 全体を通した考察

■実習に対する考察

学生の学びとその要因について考察する。学生の学びは主に3点挙げられる。まず1点目は地域との関わり方である。学生たちは、地域行事や日常的な活動を通じて地域住民との交流を深め、地域社会の現状を理解する貴重な機会を得た。特に住民との会話を通じて、地域課題を認識しどのように貢献できるかを考えるきっかけとなった。また、地域に馴染むためにはまず挨拶をし、分からないことにも懸命に取り組む姿勢が重要であることを学んだ。このような経験は、市民センターという地域密着型の場だからこそ得られた貴重な学びであった。2点目にチームビルディングである。出身や所属、入試形態の違う学生がチームを組み、価値観やモチベーションの違いやそれによる衝突や理不尽さを感じながらもチームをマネジメントする機会を得た。意見が出しやすい雰囲気を作ることを心がけることやこまめに話し合いを重ねる、メンバーの得意分野を活かした役割分担を意識するなどマネジメント経験を通じて、チームワークの大切さや適切なリーダーシップのあり方を学ぶことに繋がった。これは、属性の違うメンバーでのチーム体制や1年生だけで行うことから生じた学びである。3点目に地域課題の発見とアプローチがある。実習を通じて、学生たちは地域課題の発見とその解決に向けたアプローチ方法を学んだ。地域住民との会話の中から地域の課題を見つけ、時には市民センターの館長や職員から問いかけやアドバイスを受け、現場の声を基に課題を発見し、解決策を模索する力を養った。また、その課題解決に向けて学生なりにアプローチを考え、企画を立て実行するノウハウや、参加者の視点に立って計画を立てることの重要性を学んだ。準備不足で円滑に進まなかった部分もあったが、この点に関しても市民センターの館長や職員、地域住民といった地域づくりのプロからアドバイスを受けることができた。また、その経験をレポートとして振り返ることで、反省や今後の活動に活かす意識が芽生えた。ラジオ放送でも情報の創り手として、ただ自分の言いたいことを放送するのではなく、地域をよくするための一機能としてのコミュニティFMを活かし、地域性のある情報やそこでの学びを発信することもアプローチの一つとして学ぶことができた。以上を通じて目標であった①地域活動における基本的な姿勢、マナー、考え方、チーム協働の方法を学ぶこと、②プロジェクトを進める基本的なプロセスを理解し、自己の得意不得意に気づくこと、③地域創生に向けた現場を理解し、まちづくりのビジョンや熱意を学ぶことで、自らの問いを見つけることができたのではないかと考える。これからは、実習で得た学びをさらに深め、地域に継続的に貢献できる取り組みを進めていくことが求められる。

■謝辞

本実習を通じて得られた多くの学びは、市民センターの皆様、まちづくり協議会をはじめとする市民センターの関係者の皆様および地域住民の皆様、そして本実習にご協力いただきました北九州市生涯学習課の皆様、その他この実習に関係してくださったすべての方のご支援とご協力によるものです。心より感謝申し上げますとともに、今後の活動においてもご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



北九州市立大学
地域創生学群
REGIONAL DEVELOPMENT

地域 FM ラジオ実習 2024 年度報告書

2025 年 3 月 31 日発行

作成：北九州市立大学 地域創生学群 初年次実習ワーキング
(廣川祐司・眞鍋和博・片岡寛之・寺田千栄子・村江史年)

責任編集：矢ヶ井那津

※本報告書は、公益財団法人北野生涯教育振興会の研究助成を受けて作成されました。